

# 金沢市長選挙、県・市議補欠選挙の結果について

2014年10月6日 日本共産党金沢地区常任委員会

10月5日投開票された金沢市長選挙で、日本共産党は「市民の会」のますきよみ候補を推薦してたたかい、前回の「会」候補の得票を2941票上回りましたが、10311票で当選には至りませんでした。同時に行われた補欠選挙では、定数3の県議補選で、おおくわ初枝候補が18455票を獲得して3位で当選し、定数4の市議補選でも、奥野ひでなり候補が19400票を獲得して4位で当選しました。県議会では、戦後初の日本共産党の複数議席実現であり、市議会でも、ます元市議が市長選出馬のために辞職した1議席を守って会派の要件となる3議席を確保しました。県議会でも市議会でも、利権政治を許さず、安倍政治の暴走と正面から対決して、県民、市民の願い実現をめざす新しい大きな力をもつことができました。

ご支持をいただいた市民のみなさん、突然の選挙戦でのご支援、ご奮闘いただいた支持者、後援会員、読者、党員のみなさんに、また全県からのご支援に心からお礼と感謝を申し上げます。

市長選は、形の上では、自民の「歯がついた前市長、自民党前県議、連合と民主・社民が推薦した旧奥田系の前県議、そしてわが党が推薦する「市民の会」のます候補の対決となり、県・市議補選もそれに対応した4陣営による選挙となりましたが、政治の前身では、「利権疑惑の居直りと幕引き派」3陣営と「疑惑解明・汚れた政治の大それうじ」を訴えるます候補と党の2候補との対決、「安倍政治応援」の3陣営と「安倍暴走政治に正面から対決する」ます候補と党の2候補との対決でした。「市民の会」と党は、利権政治の「毒と清潔・公正な政治の実現、くらしと平和を脅かす安倍政権の暴走と対決し、暮らしを応援する政治の実現を訴えて攻勢的にたたかいぬきました。

地区委員会には、党としてとりくんだ市民アンケートに「10画を超える返送があり、利権政治への怒りとともに、消費税の増税や年金削減による生活苦を訴える声、ブラック企業に苦しむ若者の声、戦争への道の危惧や原発ゼロの願いなど、くらしの悲鳴と安倍政治への怒りがあふれていました。こうした市民の思いにこたえたビラや候補者を先頭にした訴えに、熱い共感と大きな手応えが日々広がり、とくに県政・市政をチェックし、要求を届ける議員を選ぶ補選では、疑惑追及と安倍政治ノーの思いを託せる党として、日本共産党の役割が鮮明になりました。

自民党は、連日国会議員を送り込んで総力で選挙戦にのぞきましたが、自らの利権疑惑は棚上げしながら、この問題を前市長降ろしの政略に利用したことへの批判も広がり、安倍暴走政治への不安と怒りと重なって、「自民党の市政乗っ取りはゴメン」という大きな流れが起き、それが前市長を押し上げることになり、市長選では大差の敗北となりました。自民党は、市議補選でも国会議員秘書の公認候補が落選するという無残な結果となりました。

民主党は、現職県議が自民党の市長候補を支援して離党し、県議会の議席がゼロになるという混乱のなか、補欠選挙で公認候補を立てられず、民主・社民・連合で推薦した候補は、市長選でも県議補選でも落選しました。

県議補選でも市議補選でも議席を獲得した日本共産党の躍進の姿が鮮やかに示された、「自共対決」の新しい時代の一歩をひらく選挙となりました。

山野市長と与党会派の利権疑惑は何も解明されておらず、今回の選挙結果をもって、もう済んだ問題だというわけにはいきません。党として、ひきつづき100条委員会設置による調査・解明を求めるとともに、市民運動としても利権政治を許さないたたかいをいっそう大きく発展させていく決意です。同時に、安倍自公政権のもとで、暮らしも経済も破壊する消費税増税、原発再稼働、戦争する国づくりへの法案化など、国の進路の命運がかかった重大問題が待ったなしで迫っています。日本共産党はあらゆる分野で、「一歩注進」を広げて、こうした危険な暴走にストップをかけるとともに、公約でかかげたくらし応援の政策実現に全力で奮闘します。

そして、新しい「自共対決」の時代にむけて党の本格的な躍進の波をつくりだすために、半年後に迫ったいっせ地方選挙での勝利めざし、今回の選挙戦でも痛感した自力の不足の打開へ、住民と深く結びついた強く大きな党づくりをめざして本腰を入れた努力をつよめていく決意です。